

# 天草市立牛深市民病院 が担う役割について

令和5年(2023年)2月 天草市立牛深市民病院

# 1 現状と課題（1／8）

## ◎天草市立病院の理念、基本方針

基本理念	私たちは、市民が必要とする医療を提供し、市民に信頼される病院及び診療所を目指します。
基本方針	<病院事業の継続> 天草市は、市民の健康な生活を支援する施策として、病院事業を継続し、市民の健康と福祉の増進に努めます。
	<地域医療の確保> 市立病院は、今後も連携して天草市域を対象とした地域医療の確保に努めます。
	<経営改革の推進> 市立病院は、「安定した経営基盤の確立」、「安全・安心の医療提供」を目指した経営改革を進めます。
	<災害対策医療体制等の整備> 市立病院は、災害対策医療に力を入れ、災害拠点病院等と連携し自然災害、新興感染症に対応できる病院として体制を整備します。

# 1 現状と課題 (2 / 8)

## 【自施設の現状と課題】

### ◎担うべき役割や機能の明確化

当院を含む天草市立4病院は、今後さらに深刻化する人口減少、少子高齢化の中で、持続可能な医療提供体制を確保するため、担うべき役割の明確化、病床数や病床機能等の見直しの案をまとめ、令和元年(2019年)12月に開催された「第8回天草地域医療構想調整会議」において報告を行い、合意を得ることが出来ました。

その、合意していただいた案を基に「第4期天草市立病院改革プラン」を令和3年(2021年)3月末に策定し、病床数、病床機能を見直したほか、診療体制の検討・見直しを進めているところです。

また、令和4年(2022年)4月に総務省が「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を策定し、これを基に公立病院は「経営強化プラン」を策定することになっていますので、本市では「第4期天草市立病院改革プラン」の基礎的な部分はそのままに、必要事項の追記、計画期間、収支計画等の見直しを行った『天草市立病院経営強化プラン』を現在作成中で、令和5年(2023年)3月末の完成を予定しています。

# 1 現状と課題 (3 / 8)

<p>役割の明確化</p>	<p>下島南部エリアの拠点病院として、小規模ながらも機能性を持った急性期医療の充実を図ります。</p>																	
<p>病床機能及び診療体制の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床数は30床削減しました。</li> <li>・ 急性期を終えた患者の受け入れ先として回復期医療を一部確保しており、理学療法士を増員することで回復期病床内の地域包括ケア病床を9床から12床まで転換しましたが、今後、更に転換を進めます。</li> <li>・ 慢性期医療（療養病棟）は、透析患者も多く療養環境確保の観点から当面は保持します。なお、河浦病院との機能的な連携を図り、縮小する方向も今後検討を行います。</li> <li>・ 地域の民間医療機関と競合する診療科目等の見直しを検討します。地域住民の高齢化に伴う訪問診療、訪問リハビリ等の充実を図り、地域の医療機関と連携して在宅療養支援を行います。</li> <li>・ 手厚い急性期医療提供のため、入院基本料10対1の取得を目指し、そのための体制づくりを行います。</li> </ul>																	
<p>病床数の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少による患者数減を見込み、病床数については118床としました。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="311 996 1831 1332"> <thead> <tr> <th data-bbox="311 996 620 1061">病床機能</th> <th data-bbox="620 996 1116 1061">見直し前</th> <th data-bbox="1116 996 1831 1061">見直し後(令和3年(2021年)3月末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="311 1061 620 1132">急性期</td> <td data-bbox="620 1061 1116 1132">105床</td> <td data-bbox="1116 1061 1831 1132">50床</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 1132 620 1203">回復期</td> <td data-bbox="620 1132 1116 1203">—</td> <td data-bbox="1116 1132 1831 1203">35床</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 1203 620 1275">慢性期</td> <td data-bbox="620 1203 1116 1275">43床</td> <td data-bbox="1116 1203 1831 1275">33床</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 1275 620 1332">計</td> <td data-bbox="620 1275 1116 1332">148床</td> <td data-bbox="1116 1275 1831 1332">118床</td> </tr> </tbody> </table>			病床機能	見直し前	見直し後(令和3年(2021年)3月末)	急性期	105床	50床	回復期	—	35床	慢性期	43床	33床	計	148床	118床
病床機能	見直し前	見直し後(令和3年(2021年)3月末)																
急性期	105床	50床																
回復期	—	35床																
慢性期	43床	33床																
計	148床	118床																

# 1 現状と課題（4／8）

## ◎当院の診療体制

### 【届出入院基本料】

	病床数	基本料
一般病棟	85床	一般病棟入院基本料 13対1（地域一般入院料 1） ※内 12床は地域包括ケア入院医療管理料 1
療養病棟	33床	療養病棟入院料 1

### 【診療科】

内科、代謝内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、人工透析内科、リハビリテーション科、救急科

### 【当院及び診療圏の特徴】

- ・ 当院の主な医療圏は牛深地域になっており、地域内唯一の救急告示病院です。
- ・ 地域の初期医療、急性期医療、在宅支援病院、救急告示病院、人工透析治療を担う病院として地域医療の拠点となっています。
- ・ 牛深地域は高齢化率が高く、また地理的にも本渡地域まで車で1時間以上必要なことから、地域内で引き続き、現医療提供体制の確保が必要と考えます。

# 1 現状と課題（5／8）

## 【政策医療について】

- ・ 救急医療につきましては、救急告示の指定を受け下島南部エリアの拠点病院として、救急患者を受け入れています。  
　　<令和元年度(2019年度) 救急車受け入れ296台、救急患者延べ4,031人>
- ・ 外傷（骨折）、心疾患・脳疾患等の当院で対応できない場合は、天草地域医療センターと連携し対応しています。
- ・ 手術室も2室有しており、令和元年度は、年間195例（うち全身麻酔48例）の外科系の手術を実施しています。
- ・ 牛深地域で唯一人工透析治療を行う病院となります。  
　　<令和3年度(2021年度)20ベット延べ6,818名の透析を実施しています>
- ・ 牛深地域で民間が提供できない診療科である小児科、耳鼻咽喉科、産婦人科を提供しています。（大学派遣医師等にて対応）
- ・ 周産期医療につきましては、本渡地区の早稲田クリニックと連携し、妊婦健診等の外来診療を実施しています。
- ・ 在宅医療については、牛深地域の介護施設の協力医療機関として、医療・介護連携を進めています。
- ・ 訪問診療・訪問リハビリテーションを実施し、平成29年(2017年)5月より、“在宅とつながるクリニック天草”と連携し、在宅支援病院として在宅医療に携わっています。

# 1 現状と課題（6／8）

## ◎自施設の診療実績

### 【入院の状況】

		H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)
病床数 (床)	一般	105	105	105	105	85
	療養	43	43	43	43	33
	合計	148	148	148	148	118
患者数 (人)	一般	29,958	29,299	28,811	21,403	17,423
	療養	11,211	11,282	12,369	11,648	10,317
	合計	41,169	40,581	41,180	33,051	27,740
病床 利用率 (%)	一般	78.2	76.4	75.0	55.8	56.2
	療養	71.4	71.9	78.6	74.2	85.7
	合計	76.2	75.1	76.0	61.2	64.4
1日当りの平均患者数		113	111	113	91	76
在院日数（一般のみ）		23.4	25.1	19.5	18.5	15.7

注：令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対応のため、患者数は減少している。

# 1 現状と課題（7 / 8）

## 【外来の状況】

	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)
患者数	61,363	56,805	53,968	48,521	48,225
1日当りの平均患者数	209	195	186	166	164

注：令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対応のため、患者数は減少している。

## ◎当病院の職員数(令和4年(2022年)4月)

部門	職種	人数	部門	職種	人数
医局	医師	5	臨床工学係	臨床工学技士	3
薬局	薬剤師	2	栄養管理係	管理栄養士	2
	事務補助	1		調理員(作業員含む)	1 2
看護課	看護師	7 7	医療連携室	社会福祉士	2
	看護補助	2 6		看護師	1
	看護事務補助	3	事務部門	医療事務(委託)	1 2
X線係	臨床放射線技師	4		医師事務作業補助	4
検査係	臨床検査技師	5		事務職	8
リハビリ 部門	理学療法士	7		労務職	2
	作業療法士	2	合計	1 7 8	



# 1 現状と課題（8／8） 受託業務等

	相手方	内容等	対象者
検診受託	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天草市、国保、社保</li> <li>・全国健康保険協会</li> <li>・財団法人 船員保険会</li> <li>・各事業所（70事業所）</li> <li>・市町村共済組合</li> <li>・天草市</li> <li>・特別養護老人ホーム明照園</li> </ul>	特定検診、施設検診、人間ドック 生活習慣病予防検診 船員手帳交付時検診、生活習慣病検診 事業所検診（法定検診） 人間ドック、総合検診 天草市職員検診（牛深地区） ・定期健康診断（養護50人、特養70人） 入居者健康診断（4月・10月）及び随時	市民 延べ473人 社会保険加入者 231人 船員等 62人 法定 200人 組合員等 9人 職員等 延べ194人 全入居者 新規入居者
協力病院業務 「9施設」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人「明照園」</li> <li>・明照園あんじん「居宅介護」</li> <li>・ケアセンター鶴丸「介護老人」</li> <li>・ワークショップ「ひなたぼっこ」</li> <li>・多機能ハウス「正寿庵」</li> <li>・特別養護老人ホーム「悠ホーム」</li> <li>・多機能ハウス「あかね苑」</li> <li>・多機能ハウス「泉寿苑」</li> <li>・グループホーム「明香里」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 入居者、利用者の診療に関して協力医療機関として協力。</li> </ul>	全入居者 全利用者
配置医師派遣業務（1施設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人明照園 養護 50人 特養 70人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 週1回 2時間常駐 入居者の健康管理、指導相談及び診療</li> </ul>	全入居者
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天草市等</li> <li>・熊本赤十字病院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天草市受託各種予防接種</li> <li>・乳幼児検診（天草市）</li> <li>・妊婦検診（熊本県）</li> <li>・献血に係る医師派遣（年4回程度）</li> </ul>	市民 乳幼児 妊婦

## 2 今後の方針（1/2）

### 【地域において今後担うべき役割】

#### ◎地域医療で担うべき役割

4 ページに記載したとおり、令和3年(2021年)3月末に“役割の明確化”“病床機能及び診療体制の見直し”“病床数の見直し”を掲げ、地域に必要とされる医療を提供することで、持続可能な医療提供体制を確保していく方針です。

#### ◎新興感染症で担うべき役割

令和2年(2020年)から現在(令和5年(2023年))まで流行が続いている新型コロナウイルス感染症の対応では、外来では診療・検査医療機関、検査センターとして発熱患者等の対応に当たり、延べ7,751件(R5.1月末現在)の検査を実施し、ワクチン接種業務では延べ15,638人(R5.2月現在)へ接種を行いました。また、入院では重点医療機関として即応病床を20床確保し延べ患者数3,008人<実人数:305人>(R5.1月末現在)の受け入れを行っています。

今後も新たな新興感染症が発生した場合は、新型コロナウイルス感染症対策で整備した施設、機器等を活用し同感染症と同等の対応を行います。

その他にも今回の経験等を活かした感染対策マニュアル、診療継続計画等の関連計画の更新、策定、感染防護具等の備蓄等を行っています。

## 2 今後の方針（2／2）

### 【地域において今後担うべき役割】

#### ◎必要な医師の確保

- ・ 必要医師数は、非常勤医師により確保は出来ている状況ですが、可能な限り常勤医師での確保を図っていきます。
- ・ 地域からの要望が多い小児科、産婦人科の診療科については、診療日数が少しでも増やせるよう関係機関への働きかけを行っていきます。

#### ◎必要な医療従事者の確保

- ・ 看護体制充実のため看護師の増員を図っていきます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ前に、外部の感染管理に詳しい看護師に指導を受けた経緯もあることから、市立病院内で“感染管理認定看護師”の育成も予定しています。
- ・ 令和5年(2023年)4月からは言語聴覚士を採用し嚥下や言語障害等のリハビリテーション医療を、また、社会福祉士を採用増員し入退院支援等の充実を図ります。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	平成29年(2017年)	令和5年(2023年)	令和7年(2025年)
高度急性期			
急性期	105	50	50
回復期		35	35
慢性期	43	33	33
その他			
合計	148	118	118

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

- ・急性期を終えた患者の受け入れ先として、回復期医療の病床維持とともに、回復期病床内の地域包括ケア病床を今後20床まで転換する予定です。
- ・慢性期医療（療養病棟）は10床削減したが、透析患者も多く療養環境確保の観点から当面は保持します。なお、療養病床を更に縮小する場合は、河浦病院との機能的な連携を図ることとします。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 令和5年(2023年)3月	令和7年(2025年)	理由・方策
維持	内科、代謝内科、外科、 整形外科、小児科、産婦 人科、眼科、耳鼻咽喉科、 人工透析内科、リハビリ テーション科、救急科	内科、代謝内科、外科、 整形外科、小児科、産婦 人科、眼科、耳鼻咽喉科、 人工透析内科、リハビリ テーション科、救急科	現状の診療科を維持
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点 (令和元年度時点)	令和7年(2025年)
①病床稼働率*1	76.0%	91.5%
②紹介率*2	6.0%	6.0%
③逆紹介率*3	3.2%	3.2%

注：現時点の数値は、令和2、3年度が新型コロナウイルス感染症患者受け入れの影響で比較対象とならないため、令和元年度の数値とする。

\*1 使用可能な病床数に対し患者さんの入院割合〔在棟患者延べ数/(許可病床数×365)×100〕

\*2 他の医療機関から紹介されて来院した患者さんの割合〔紹介患者の数/初診患者の数×100〕

\*3 当院から他の医療機関に紹介した患者さんの割合〔逆紹介患者の数/初診患者の数×100〕

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題 (1 / 2)

### 【取組みと課題】

#### □ 病床稼働率

(取組) 牛深地域の人口減少を踏まえ病床数を令和3年(2021年)3月末に30床削減したことで、稼働率は上昇すると見込んでいます。

また、熊本県病床機能再編推進事業補助金を活用し病棟リハビリ室、介護浴室の改修・新設など病床機能の充実・強化に取り組んでいます。

(課題) 今後更に人口減少が予想されることから、再度病床数の検討・見直しが必要になるとみています。

#### □ 紹介率・逆紹介率

(取組) 令和5年(2023年)4月から社会福祉士を増員、言語聴覚士を新規採用することにより、地域連携の機能や言語障害等のリハビリテーション医療の充実を図り外来機能の連携に引き続き取り組みます。

(課題) 天草南部の拠点病院として急性期医療を行うとともに、地域包括ケア病床、慢性期機能を有しているため在宅復帰をされる患者も多いことから、紹介率・逆紹介率とも低い状況となっています。

今後、地域の医療機関と連携を促進し向上に努めます。



### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題 (2 / 2)

### 【「医師の働き方改革」を踏まえた取組みと課題】

#### (取組)

○現在、常勤医師の時間外労働の状況は、2024年(令和6年)4月から開始される「医師の時間外労働規制」のA水準(月100時間未満、年間960時間)に該当します。

「医師の時間外労働規制」を遵守するには、宿日直業務を非常勤医師に従事してもらう必要があります。このことから大学等関係機関に引き続き医師派遣の要請に引き続き取り組みます。

○令和5年(2023年)4月から医療クランクを採用増員、医師業務の負担軽減に取り組みます。

#### (課題)

○当院は、労働基準法に基づく「断続的宿日直勤務許可」が、いまだ得られていない状況です。「医師の時間外労働規制」が施行されると、大学側から派遣を断られる可能性もあります。当院としては、派遣を継続してもらうためにも労働基準法に基づく「断続的宿日直勤務許可」を得る必要があります。

○病院スタッフの協力を得ながら医師業務のタスク・シフト/シェアを進める必要があります。

## 4 その他特記事項

### 【医師確保】

- 令和4年(2022年)9月22日、天草市議会において当院の小児科及び産婦人科医師の確保について一般質問が行われるなど、当院の医療提供体制への地域住民の不安は年々増加してきております。
- 地域医療を担う医師の確保は、本市病院事業だけでは限界があります。
- 現行「熊本県医師確保計画・熊本県外来医療計画」の計画期間は、令和5年度(2023年度)までとなっておりますので、次期計画による県内の医師偏在是正策がどのような設計になるのか期待するものです。

### 【看護師確保】

- 当院は、継続的に看護師の募集を行っているところですが、応募者が少なく慢性的に看護師が不足している状況です。
- 看護師を安定的に確保していくためには、勤務環境・生活環境の整備が必要です。特に生活環境面では遠方から通勤する看護師も多くなっていることから、宿舎整備が急務となっております。